



20年来グローバル コミュニケーションズ エキスパート。元JAXAエグゼクティブ アドバイザー(広報・国際担当)、国立大学法人山口大学客員教授(国際関係+コミュニケーション論)、評論家・オピニオンリーダー。東京生まれ、英国育ち。講演、テレビ、執筆、政府委員など、マルチに活躍する中で、IRと都市開発のコンサル会社代表も務める。
http://www.nishiuramidori.com

連載 最終回

“国際派大和撫子”が伝える宇宙の開発現場

にしうらみどりの

「宇宙の窓から」

日米間の協力

1 年間のお約束で始めたこの連載も、区切りのよい年度末まで延長し、2話おまけをつけて最終回を迎えています。

宇宙はNASA（アメリカ航空宇宙局）を抜きにして語れません。筆者が数年前より交流してきたNASA宇宙運用局長のウィリアム・ガーステンマイヤーさんにNASA本部でお話を伺いました。

宇宙国際関係から研究開発などが弾み、全てをここで伝えることは無理です。強調なさったのは、NASAは今後、他国との共同プロジェクトを増進させる方針、日本とのコラボは今まで同様大切で、いずれの国とも長所を生かし合い、共同進化させ共有することが理想的なグローバル基準であること。また、民間企業が宇宙開発事業にもっと参入できるよう積極



NASA宇宙運用局長ガーステンマイヤー局長と筆者。ワシントンNASA本部にて

支援（技術者など）していくとのことでした。いつ会っても変わらぬ優しい紳士ぶりに時間を忘れ楽しく過ごしました。

東京では、日本の最先端DPRを搭載した米国GPM主衛星が先月末に種子島から三菱重工のH-IIAロケットで打上げに成功。NASA側のプロマネ、アート・アザルバースイン氏が打上げ前に電話をくれました。同氏はJAXAを称賛し、信頼でき高く評価するパートナーと言われたので、日頃から我が国の技術者を絶賛PRする筆者にとって嬉しい言葉でした。

GPMは8年間構想を温め10年目にスタート。ゴダード宇宙飛行センターで400人ももの人員によって製造され苦労もあったが達成し感慨無量。3800^{キログラム}もあるので運搬は気を使った等々、他の話も紹介できないのが残念です。

来日中のフランク・ローズ米国務次官補代理（宇宙・防衛政策）とも会って話を聞きました。頭脳



ローズ米国務次官補代理と筆者。アメリカ大使館にて

明晰さには脱帽ですが、核問題、大陸間弾道ミサイルでも、透明性や信頼を醸成する処置推進継続は重要だということを知りやすく教えてくれました。ロ氏は「戦略的安定に関するアメリカの考え」のテーマで佐藤行雄・日本国際問題研究所副会長司会のもと講演。質疑は現在、近隣で緊張する情勢の中での安全保障課題に集中しましたが、快活でユーモアのある応答、佐藤氏のまとめも見事でした。

筆者は世界の最たる宇宙先進国である日米両国が技術開発のみならず、国家・国際安全保障や経済成長で協力し合う最善のパートナーであり続けてほしいという思いをより強くしています。

読者の皆様へ…たっくさんのファンレターをありがとうございます。時間を要しておりますが、必ずすべてにお返事いたしますので、お待ちいただけましたら幸いです。なお、「世界の宇宙びと」(仮題)という、この連載に加筆、新取材も重ねまとめる著書の執筆中です。引き続き、よろしくお願ひ申し上げます。